●『共生社会に関する調査――2014 年調査報告』
発行：筑波大学人間系研究戦略委員会／2014 年 12 月
編者：岡本智周・坂口真康
判型：Ｂ５判、98 頁

【内容紹介】

筑波大学人間系研究戦略委員会では、活動の一環として 2014 年に「共生社会に関する調査」を行いました。

研究戦略委員会は、筑波大学人間系の研究領域の特色を活かした融合的研究プロジェクトの創成、推進を目指し、その基盤形成にむけた活動を行っています。2013 年 10 月に開催された第 10 回人間系コロキアムでは、その可能性の一つとして「共生人間科学の創成と推進」を提案しました。様々な支援を必要とする現場からの問題提起、それに対する融合的視点からの調査・分析、共生を支援する技術・制度の提案といった具体的なアウトプットまでを包括したプロジェクトの推進が構想されています。

「共生社会に関する調査」は、この融合的プロジェクトの前提となる基礎資料を得るために、現在の日本社会における「共生」に関わる社会意識の様態を探ることを目的としました。社会のなかの多様性や、支援を必要とする状況についての諸個人の認識を明らかにするとともに、その認識の関連要因となる社会的属性や社会的経験を分析するものです。

調査の概要は以下のとおりです。

✧ 調査実施時期：　2014 年１月 10 日～13 日
✧ 調査方法：　インターネットを利用したウェブ調査
✧ 調査対象：　全国の成人を対象とし、インターネット調査専門会社に登録している 20 歳以上のモニタより、性別（男性/女性）・年齢（20 代/30 代/40 代/50 代/60 代以上）・居住地域（北海道/東北/関東/中部/近畿/中国/四国/九州）ごとに日本の総人口に比例した人口構成比で計 2000 名を抽出
✧ 調査内容：　回答者の基本属性、就業状況、家庭状況、共生社会に関する認識と態度、高齢者・障害者・外国人に対する意識、日本社会に対する態度、インターネットの利用状況。計 45 問

分析の結果を報告論集としてまとめたものが、『共生社会に関する調査――2014 年調査報告』です。様々な指標から現在の日本の社会意識に表現される共生志向性を検討し、それがいずれの点においてポジティブ - ネガティブに分岐するのかを探索しました。これによって、今後の研究プロジェクトでの検討や働きかけの焦点、および、具体的な技術や制度の提案を進めていくための起点を把握することになりました。